

御笠青色パトロール隊（福岡県）

活動地域

私達は福岡県筑紫野市から参りました御笠青色パトロール隊です。福岡県のちょうど中央にあり、有名な太宰府天満宮がある太宰府市の隣が筑紫野市です。その東北部一体を昔から御笠地区と呼んでおります。世帯数は約3,200世帯、人口は約1万1,000人で、筑紫野市の面積の約28%を占めており、広い地域です。



団体の設立経緯

パトロール隊の設立趣旨ですが、話は平成16年に遡ります。平成16年12月1日、御笠地区で新たに12名の民生委員が任期3年で任命されたわけですが、その任期中の3年間の間に大きなきっかけが3つありました。

一つは、当時、全国各地で次から次に起こる悲惨な事件、特に、幼い子どもが殺害されるという事件が各地で立て続けに起こりました。これは、社会的弱者を見守るという任務を持っている民生委員にとっては非常に衝撃的な事件でした。2つ目は、その当時、青パトの認可が大幅に緩和され、それまで非常に認可が取りにくかった青パトでの活動が、現実味を帯びてきたということ。3つ目は、近隣の都市で我々よりもちょっと早く青パトを始めた地域が青パトでの活動を行ったことで、前年の犯罪件数から40%減ったということが新聞報道されたということです。この3つがきっかけとなって、我々の地区でもできるのではないか、いや、しなければいけないという使命感みたいなものが生まれ、早速準備に取りかかつたわけです。

平成18年に基本構想を立案し、このとおり進み、立ち上りました。

2番目に、行政に頼らず設立準備をすると書いていますが、今で言う自助・共助・公助です。今日お集まりの方は皆さんご存じだと思いますが、平成18年のころは、我々素人がそんな気の利いた言葉を知るよしもありませんでした。しかし、行政と我々は役割分担があるのでないかということを本能的にと言いますか、薄々感じて、とにかく自分たちで立ち上げてみようというのが基本理念でした。

そして、若干の紆余曲折がありましたが、翌年2月24日に設立総会、この時点で青パトは3台でした。翌年4月8日に大々的に出発式を行いましたが、この時点で青パト車は6台となり、この年の10月には青パト車が10台まで増加しました。

団体の概要と特長

地区内の民生委員のみで設立ということで、非常に広い地域を民生委員だけでまとめて立ち上げたというのは全国初ではないかと、最近でもよく耳にすることがあります。初期活動資金は発起人が出資、

ガソリン代は車の提供者が払うという基本理念で、3台、6台、10台と青バトは増えても、ランニングコストについては問題ありませんでした。しかし、立ち上げに必要なイニシャルコストが予想以上にかかったのです。

これは、私達が基本構想に一つ及ばなかった点でもあります。私達が考える、イニシャルコストではまるつきり頭にない物まで必要になったのです。いざ設立総会をしようかというときになって、ハガキを書くハガキ代がない、回転灯が足りない、マグネット板も作らなければいけない、ベストはあるけど帽子がないということになりまして、仕方がない、一人ずつ出そうかということで12人が1万円ずつ出して12万円、これでなんとか物品購入に間に合いました。

地区内の55団体に賛同団体を募りました。普通だったらお金をお願いしたり、パトロールをできる人を提供してくれということでお願いしますが、それを頭から一切言わず、賛同していただきたいという署名、捺印だけで回りました。これで関心度と認知度が一気にアップしまして、そのあと賛同団体からはパトロールする隊員がパラパラと入ってきたという、隊員増の秘訣になりました。それから、運行車両や車両に関する諸費用はすべてボランティア。これは当初からの基本理念でした。

そういったことで活動し始めて、平成22年までは安定的、あるいは定期的な活動資金提供は一切いたしておりません。4年ぐらいたってやっと認められまして、行政のほうから頂戴するようになった次第です。それと、日本財団さんから車両をいただきました。これは会の所有となりますので、会で何とか貰いたいということで、平成23年からは入会金と年会費制をもって会を運用するようになりました。

60歳未満の会員が約半数、我々の基本理念として、世代ミックスが一番大事ではないかということをいつも意識しております。そのために新旧PTA役員を会員としています。「新旧」としているのは、子どもが卒業したら親もPTA活動を卒業してしまうケースが普通です。しかし、これぞと思う人は卒業させない。ガッチリ握って離さないようにして一本釣りをします。そうでないと、せっかく意識を持って活動していくのに、途切れるのはもったいない。それと、PTAの一番の特徴は、毎年、供給員があるということです。小学校も中学校も新1年生が入るわけですから、そういう供給員があるところとは絶対密接に関わりたいということです。現状がどうなっているかと言いますと、入会金・年会費制が平成22年5月23日の総会で承認されました。まったく反対意見なしで、全会一致で可決されました。正会員と賛助会員がありまして、正会員はパトロールをする方、賛助会員はパトロールできないけれどお金でもって賛助しますという方です。入会金500円、年会費500円です。団体の場合はそれぞれ

御笠青色パトロール隊の特長 その1

- 「立ち上げ」から「運営」まですべて、住民による任意のボランティア集団！
- 地区内民生委員全員での設立！(全国初?)
- 初期必要費用は、すべて発起人が拠出！
- その後の運営資金も、安定的かつ定期的な資金供給元はなし。助成金と浄財のみ！
- 入会金＆年会費会員制で活動！(H.22.5～)
- 青バト車が10台！内、9台はマイカー！

H.23年度より一部車両

御笠青色パトロール隊の特長 その2

- 残り1台は「日本財団」からの寄贈車！
- 筑紫野市の28%の広域をパトロール！
(参考:福岡市南区の約80%と同面積)
- 18歳から70歳代までの「世代ミックス！」
- 60歳以下の隊員が約半数！
- 女性隊員も3割強！
- 八通りのパトロール方法！
- 数々のマスコミ取材！ etc

最も効果的な抑止力！

御笠青色パトロール隊の現状

- 「入会金・年会費」会員制 (H.22.5.23総会にて承認)
- 正会員数 (個人) 30名 (団体) 8団体 = 93名 <合計> 123名
- 賛助会員 (個人) 1名 (団体) 7団体
- 入会金 (個人) 500円 (団体) 20名未満 3,000円
年会費も同額！ 20名以上 5,000円
- 青バト車 10台 (別途、市青バト車も活用⇒計11台)
- 実施者証 56名
- 設立からの運行実績累計(60ヶ月)
(回数) 2,567回 (走行距離) 68,237km
- 月間平均走行実績 (回数) 44回 (走行距離) 1,137km
- 街頭犯罪件数推移(御笠地区) (H.22) (H.23)
最多発生年(H.14) 約120件 ⇒ ⇒ ⇒ 22件 ⇒ 15件

3,000円とか、5,000円とか、人数によって決めております。正会員数は団体、個人合わせて113名です。青パト車が10台。市のほうにも青パトがありますので、それも活用させていただいて全部で11台。実施者証が56名。

設立からの運動実績は、60ヶ月、ちょうど丸5年になります。今年の2月24日に5年を迎えました。月間平均走行実績は44回、走行距離は1,137キロになっています。

青パト各車は、ほとんどがマイカーです。1台だけが市役所内のパトです。これは日本財団さんから寄贈していただいた青パト車です。市を挙げて贈呈式が行われました。

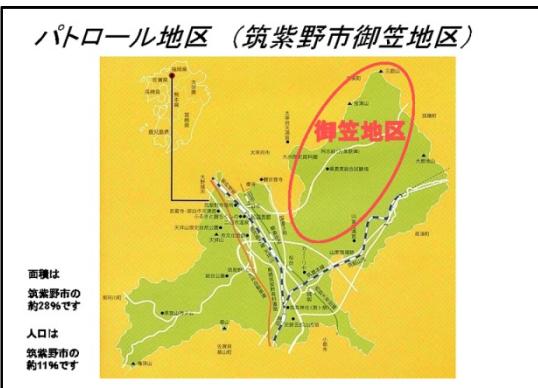
写真があります。白黒ツートンです。これも実はマイカーです。マイカーですが、パトロール専門に塗っています。これは不特定多数の人が乗っておりまます。

特徴の最後は8通りのパトロール方法です。

まず通常パト。私、個人的には、御笠青パト隊の最大の特徴はこの通常パトにあるのではないかと思っています。9つのグループに分けて、小集団活動方式でパトロールしています。画一的な活動方式は一切取っておりません。自主活動です。ツールとルールのみ統一です。9つのグループに分かれているということは、広い地域のあちに5人、こっちに20人、こっちに10人というふうに車両中心にグループがある。それで活動しているということです。

緊急パトは、緊急要請があったときに対応します。以前は1年間に10回ほど緊急パトが発動していましたが、最近は年に1~2回に激減しております。

合同パトは、警察と一緒にパトロールとか、青パトが何台か集まってパトロールするやり方を合同パトと呼んでおります。



ハチのパトロール方法 その1

1. 通常パト
 - ・9グループに班分けし、小集団活動方式にてパトロール
 - ・画一的な活動方式を取らず自主活動！
 - ・ツールとルールのみ統一！
2. 緊急パト
 - ・防犯メール受信後の緊急対応
 - ・小学校からの緊急要請に対応
 - ・警察当局からの要請にも対応
3. 合同パト
 - ・第2第4金曜日「一齊街頭活動の日」のパレード・パト！
 - ・警察パトとの合同パト！



イベント・パトは、特に夏祭りとか地域行事があるとき。広い地域ですので、あちこちで1週間ずれて開催されるんですね。開催されているところに、開催されていないところの隊員が集中的にパトロールする。そして、安心して夏祭りのお酒を飲んでもらう。そして、その翌週にはその逆の方法というのを、イベント・パトと呼んでいます。

体験パトは、子どもさんとか、親子とか、あるいはパトロールをやってみたいという大人の方を乗せた体験パトです。これは無料です。会費はいりません。

ひる・パトは、主に昼間、子どもの小学校の下校時間に合わせてパトロールするのですが、警察などにお聞きしますと、空き巣は昼間下見をしたり、仕事をするということで、下校時間に関係のない時間にひる・パトをしています。

訪問パトは民生委員が立ち上げたものです。顔見知りになった独居高齢者の方がおられ、その近所を通るときには必ず声を掛けてやっています。一度だけ、強引な訪問販売で困っておられたところに出くわして、それをキャンセルさせた実績もあります。

よる・パトは昼に対して夜ですが、仕事終わりの若いお父さんがパトロールしやすいように、ちょっと遅めのパトロールをお勧めしています。

八つのパトロール方法 その2

4. イベント・パト
・夏祭り、地域行事、その他イベントの際のパトロール
・行事開催地区へ、未開催地区会員がパト

5. 体験パト
・パトの重要性や無灯火自転車の危険性の体験
・親子体験パト、大人の体験パト等

6. ひる・パト
・すばり、空き巣対策パト
・集合して一斉に分散パト



八つのパトロール方法 その3

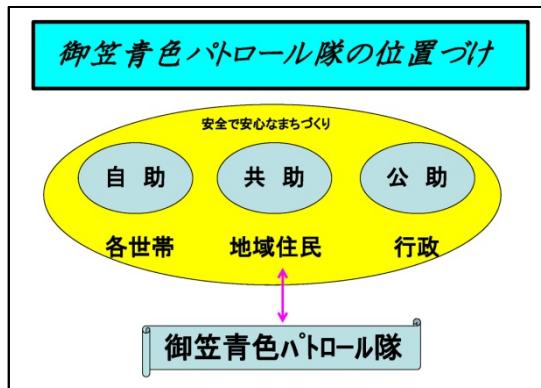
7. 訪問パト
・独居高齢者宅への声かけ訪問パト！
・前、民生委員による福祉巡回活動！
・御笠青色パトロール隊のオリジナル・パト

8. よる・パト
・仕事を終えてのパトロール！
・よる20時15分からの夜間パト！
・若い会員の確保に効果あり！



それと、レディース隊テストパトロール中、とあります。レディースがおります。若い方も、そうでない方も。この方たちが、女性だけでパトロールしたい、男性と一緒にだったらちょっと抵抗があるということで、いまテストパトロール中です。今後皆さんにお会いすることがあつたら、9つのパトロール方法になっているかもしれません。いまネーミングはいろいろ考えているみたいです。パトロールしてからランチを食べるから「ランチパト」にしようかとか、いまはやりの「なでしこパト」「レディースパト」など名前はいろいろ考えているみたいですが、考えている間が楽しいんですね。パトロールを先にしようか、ランチを先にしようかと悩んでいるようです。それはどっちでもいいと思いますが、レディースパトです。

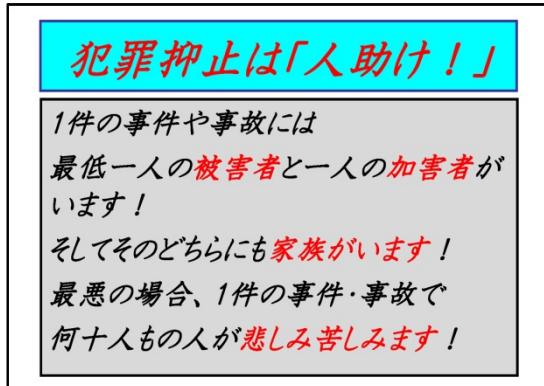
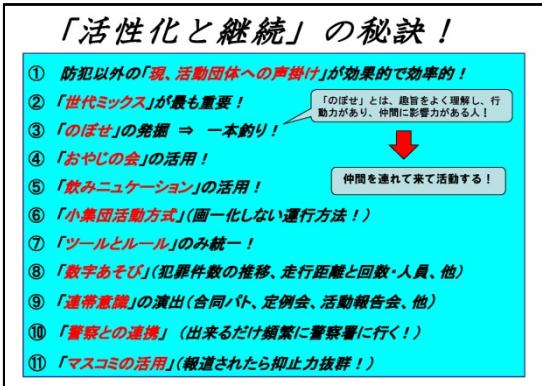
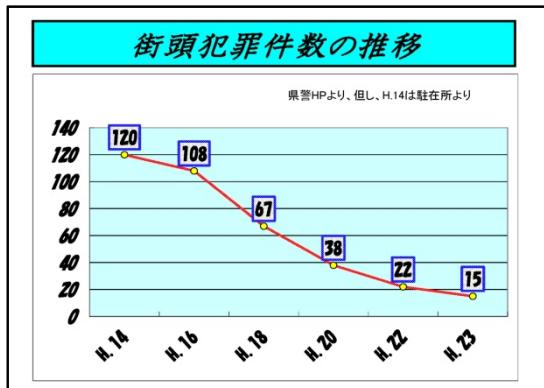
先ほど言いました自助・共助・公助で我々は頑張っているつもりですが、自助への働きかけ、あるいは公助のお手伝いといったことができれば幸いかと思っております。



活動の効果

街頭犯罪件数のグラフです。平成14年度は推定値で、もっとあったのではないかという声もありますが、120件で抑えています。それが年々減りまして、昨年度は15件ということで、これはほとんどゼロに近い数字です。

防犯活動は安全・安心まちづくりに寄与すると言われています。もちろんそれは重要なことですが、それ以外にも犯罪抑止は人助けになるのではないか。1件の事件や事故には、ほとんどの場合、最低1人の加害者と被害者がいます。その被害者と加害者には、ほとんどの場合、家族がおられます。事件や事故が起きたら、当然家族の方々も悲します。苦します。事件や事故が悲惨であればあるほど、大きな悲しみであり、大きな苦しみになります。その後の人生が変わるということもよく言われているところです。我々の活動は小さな一助かもしれません、犯罪抑止につながればそれに勝る喜びはないと思っております。こういった防犯活動が全国で活性化されることを祈りながら、御笠青色パトロール隊の発表を終わらせていただきます。ありがとうございました。



質疑応答

●質問 昼は何時から何時ぐらいまで、夜は何時から何時ぐらいまでという、具体的な時間を示していただければ幸いと思います。お願いします。

○回答 我々は時間を一切決めておりません。決めているのは合同パトロールで、これは警察との関係がありますから時間は決めます。それと夜のパトロールです。若い人が帰ってきてからの時間。それ以外は決めておりません。と言いますのは、時間を決めますと、犯罪者はその時間、あそこは通っている、あそこはやばいと逆に言われると思います。我々は班で時間的都合のいいときに回るということで、極端な例では、さっきも通ったけれどまた通ってきたというようなことも何回もあります。そのような理由で時間は決めておりません。

●質問 年間 2,500 回も活動されているということで非常に回数が多いので、すごい組織だなと思って感心している次第です。ただ、私が感じるのは、パトロールをやる隊員の方たちがある程度年齢が高い。最初に発表された団体の平均年齢 70 歳と言われていましたが、高齢者のメンバーでパトロールをやっているので、ちょっとした事故などがあります。これだけの回数をパトロールされているとき、隊員の方のための保険とか、たとえば役所と連携を取ってボランティア保険に入るとか、おやりになっているのでしょうか。

私はいつも隊員の方の健康とかを心配しながらやっているものですから、これだけ回数をおやりになっているのなら、何らかの事故とかがあるのではないか。それはどうされているのですか。

○回答 今、10台中9台は全て個人所有車ということで、持ち主が掛けた保険のみです。1台は日本財団さんからの助成で、隊で管理・維持し保険を掛けています。この間も総会をやりまして、そのときにも安心して回りたいが、保険金額はどれぐらいかという質問がありました。その車にはそれなりの保険を掛けています。日本財団さんから頂戴した車は、実施者証を持った人はだれでも乗れるということで、非常に危険を感じております。

しかし、不思議なことにこれだけ走りましても、自家用車のパトロール中、まだ1件も接触事故はありません。ただし、事故ということまではいきませんが、ちょっと危ないなということがありました。これはいつも自分が乗っていない車ということでそのようなことが起こったと理解していますが、ありがたいことに5年間、まだ接触事故すらありません。我々は、交通事故がないことを願っている次第です。